

「身近な税金」

富山県立新湊高等学校二年 殿村 遥香

七月下旬に家族で旅行に行った。そこで、たくさんのお土産やおいしい食べ物を食べた。旅行先であるディズニーランドの商品は一つ一つの単価が割と高いため、自分のお小遣いでは思った以上にお土産を買うことができなかった。その要因の一つとして消費税10%があると思う。そんなこともあり、私が身近に支払っている税金について少し興味がわいた。

日本には様々な税金があり日本の国営に役立てられているが、世界にはどのような税金があるのか興味がわいて調べてみた。ヨーロッパ諸国の税金が高いのは、税収の多くを社会保障に還元しているからである。例えば、イギリスの渋滞税は渋滞が生じたときではなく特定の有料エリアを走ると一日ごとに税金を支払い、街中に設置されている専用機を使い支払うものであり慢性的な渋滞を緩和するためのものである。ハンガリーのポテトチップス税はスナック菓子・ケーキ・清涼飲料水・栄養ドリンク等の塩分や糖度の高い商品に対して課される税金であり国民の肥満防止を目的としたものである。フランスのデジタル税は、グーグルやフェイスブック等の売上高が一定基準を満たす大手のIT企業に対して、独自のルールで広告収入や個人情報の転売に対して課税されるものである。日本の入湯税は温泉のある宿泊施設に泊まると必ず支払うことになるもので温泉のある市町村で施設の整備をするための費用として徴収しているものであり、日本人にとって馴染みの税金でもある。他の国や日本では、これまでも様々な珍しい面白い税金が導入されてきた。それぞれの税金の内容や背景を知ることによって各国の様々な事情を垣間見ることができる。このように、世界の税金を見てみると新たに税金が課される際にはその時の時代背景が大きく影響していることが分かる。自分の身近に関わっている税金である消費税は、子ども・子育て支援、年金、医療費、介護などの少子化対策に使われ、社会保障に役立っている。例えば、犯罪者や災害・事故・火事から守るため、病気にならないように、病気をしても誰でも病院にかかれるようにする健康のため、お金がなくても誰でも勉強やスポーツ、芸術を学べて自分の夢を叶えられるようにする文化的に生きるためがある。日本では近年、急速に少子化・高齢化が進んでいる。そのため、働いて税金を納められる人が減り、逆に年金や医療の必要な人が増えてきている。

社会保障が増していることが理由で税収が足りず増税をくり返しているが、安心のため健康のため・文化的に生きるためにも税金を有意義に使ってほしいと思った。